５．本学における教員養成教育の質を向上させる取り組みについて

東北学院大学では現在、以下の各取り組みを通じて教員養成教育の質の向上を図っています。

（1）教職課程における単位認定の適正化

現在の大学教育では、「単位の実質化」への取り組みの強化が求められています。これに先んじて、本学の教員養成教育では教職課程における単位認定の適正化を長年にわたり行っています。

本学に入学直後の時点で教職課程にエントリーする学生は、全学で毎年400名ほどにのぼります。しかしながら、その後教職課程を履修する４年間に、学生たちは教職課程の各授業を受け、課題や試験、あるいは実習等と格闘していきます。その結果４年後の卒業時に教員免許状を受け取ることのできる学生は、入学時にエントリーした学生のうちおよそ３割ほどに絞り込まれます。本学の教職課程を履修している学生たちは、こうして自身の適性を自問しながら、教職への志向を確認していきます。

（2）学校関連ボランティア活動等への参加の促進

①「学生サポートスタッフ」の派遣（仙台市教育委員会との連携）

2008年度から教職課程履修者を中心とする本学学生を、仙台市立小・中学校に「学生サポートスタッフ」として派遣しています。学生サポートスタッフは授業場面にとどまらず、学校生活全般において教員の補助を行っており、教職志望の学生にとって学校の実情や児童・生徒の実態に触れる貴重な機会となっています。ボランティア希望の学生は、仙台市教委スタッフを招いて実施される「学生サポートスタッフ研修会」に出席し、教職課程センターに登録した上で活動を行います。

②「地域別学校ボランティア」の派遣（宮城県内各市町村教育委員会との連携）

宮城県が2011年度から開始した「学び支援員」派遣は、被災地学習支援の事業として継続してきましたが、2021年度よりは仙台市を除く各市町村の教育委員会とそれぞれに連携を図り、「地域別学校ボランティア」として活動しています。児童・生徒に対する支援の内容は主に放課後や長期休暇中の学習支援であり、派遣地域は今後全県に及ぶことが期待されます。

③「多賀城スコーレ」開校（多賀城市教育委員会との連携）

本学では工学部が立地していた多賀城市との連携により様々な活動を行ってきましたが、その一環として、2009年度から「多賀城スコーレ」を開校しています。工学部が多賀城市から若林区の五橋キャンパスに移転した以降も、夏休み３日間、冬休み２日間のスケジュールで多賀城市内の公民館等を会場に継続して実施しているところです。

この活動は学校の長期休暇中、多賀城市内の小中学生を対象に本学学生が宿題や苦手科目の学習のお手伝いをするというもので、当初は工学部の学生が多い状況でしたが、最近では学年や学部の偏りなく、興味のある学生が参加するようになっています。

中でも、学生の間になるべく多くの現場体験を求められるようになっている教職課程履修者にとって、この活動は小中学生と直接接することのできる貴重な体験となっています。学生の感想からも「参加してよかった。」「また参加したい。」「学ぶことが多かった。」といった充実した活動の様子が伺えました。

（3）現職教員研修会の共同開催

宮城県総合教育センターを会場に開催されていた現役教員対象の「中学校・高等学校英語科研修会」と「小学校外国語・外国語活動研修会」は、2018年度「小学校・中学校・高等学校外国語科研修会」として本学を会場に学生も参加可能な研修会となりました。新型コロナウイルスの拡大による２度の中止があったものの、2022・2023年度は「英語科研修会」としてオンライン形式で、2024年度からは本学のホーイ記念館を会場に対面にて実施されています。

さらに、2023年度からは研修の後半部分となる学校現場での授業実践を参観させていただけることになっています。（授業等の関係で学校へ行くことのできない学生は、後日動画視聴という形で参観となりました。）前半の講義に基づいて計画され、実践されている授業を見ることやその後の検討会へ同席させていただけることは、学生にとって大いに刺激になり、大学での模擬授業や教育実習にも大変役立つものと思われます。

この研修は宮城県教育委員会と本学の包括的連携協定に基づき、宮城県総合教育センターと東北学院大学教職課程センターが共同で開催するもので、大学と現職の先生方が相互的によい影響を与え合うことを狙いとしています。具体的な効果として、研修会に参加することで学生にとっては教員を志望する動機を確かにすることが期待でき、また、現職の先生方からは大学の教員の講義を受講して教授法の先進的な取り組みに触れたり、教員同士のやり取りからは得られない気付きを得ることができた、学生からの意見を聞いて初心を思い出すことができたという声もいただいています。その他にも、教員を志望する学生は現職教員の熱意、実践的指導力、現場での問題点やその解決方法等に直接触れることのできる貴重な経験となっています。

2025年度は「小・中・高の系統性を持たせた言語活動における指導」をテーマにし、１日目午前中は村野井仁教授の講義、午後は小・中・高それぞれの校種に分かれて本学の担当教員のミニ講義を聞いた後、指導案作成等の演習を行いました。

さらに、２日目となる学校現場での研修については、３名の学生が多賀城市立第二中学校へ訪問して授業を参観した後、授業検討、１日目の研修を踏まえた各学校の実践例についての成果報告、情報交換に参加させていただきました。

今回の参加人数は宮城県内現役教員が70名、本学学生が英文学科・教育学科の２～４年生14名となりました。教員・学生とも毎年継続して参加しているケースも見られ、研修の充実度が伺えます。

【参考】p. 107～109　英語科研修会　参加報告書